

5

岩手県民生委員児童委員協議会の取組み

(1) 民生委員児童委員の被災状況

県・指定都市	死亡	負傷・疾病	建物被害	原発からの避難
岩手県	26 名	8 名	295 件	—
宮城県	23 名	6 名	1,223 件	—
福島県	7 名	3 名	633 件	303 件
仙台市	0 名	11 名	765 件	—
上記以外の県・指定都市	0 名	2 名	2,379 件	—
計	56 名	30 名	5,295 件	303 件

*全国民生委員児童委員連合会報告（平成24年5月）より

県内の被災状況の詳細は上表のとおりです。

陸前高田市高田地区では、定数16名のうち、7名の民生児童委員が尊い命を失い、辛うじて命を保った9名のうち6名が建物被害を受けるなど、地区によっては民生児童委員協議会（以下「民児協」という）としての存続が危ぶまれるほどの多大な被害となりました。

亡くなった民生児童委員は、住民の安否確認や避難誘導などの活動中に被災したことが分かっています。一度高台に避難したものの周囲の制止を振り切って要援護者を助けに行った方、避難所ごと住民とともに流された方もいました。

内陸南部を中心とした建物被害は295件ですが、内陸部では、沿岸の民生児童委員に比べれば被害はそれほどでもないとの理由で、被害を申請しない方も多く、実際にはもっと多くの建物被害があったと推測されます。

(2) 全国民生委員児童委員連合会からの支援と県内民生児童委員の支援

〈平成23年度〉

全国民生委員児童委員連合会（以下、全民児連という）が、被災した民生児童委員への弔意・見舞いのための義援金募集を全国23万人の民生児童委員へ呼びかけたところ、187,138,717円が集まりました。

また、全民児連の動きに呼応し、被災3県の中でも唯一、岩手県民児協は県内内陸の民生児童委員へ義援金募集を呼びかけ、2,330,818円が集まり、全額全民児連へ送金しました。

この結果、県内の被災民生児童委員には、次のとお

り義援金が配分されました。

- 第1次配分（人的被害：34件） 13,950,000円
 - 第2次配分（建物被害：290件） 19,300,000円
- 計33,250,000円

〈平成24年度〉

発災から1年半が経過してもなお、深刻な状況の続く住民支援に奔走する民生児童委員や民児協活動を支えるため、全民児連は民児協活動支援のための拠金を全国に呼びかけました。集められた拠金は、平成24年度～26年度の3年間、被災県・市民児協へ助成されることとなっています。

24年度分として、岩手県民児協には3,711,000円が助成され、県内沿岸9市町村民児協に2,600,150円を配分しました。

岩手県民児協では、全民児連の動きに呼応し、被災3県の中で唯一、県内全域の民生児童委員へ拠金募集を呼びかけ、1,895,660円が集まりました。今後、配分される全民児連の拠金を元にした民児協活動助成金と併せて、平成25年度に県内での配分方法を検討することとしています。

(3) 物的支援からのスタート

3月26日、県民児協正副会長は被災地に住む県民児協副会長を訪問し、被災状況を視察しました。また、平成23年度の事業計画の変更等を協議するとともに、今後の被災地民生児童委員及び民児協を全力で支援していくことを決めました。

具体的な支援は、物的支援から始まりました。きっか

けは、被災した地区民児協会長が、地区の民生児童委員の安否確認をティッシュボックスの切れ端にメモしてきたことです。

地域の状況を把握し適切な支援に結びつけるという民生児童委員活動の基本を行うには記録が大事です。そのための道具が必要と考え、文房具セット(キャリアケースにボールペン、シャープペン、消しゴム、定規、蛍光ペン、ペンケース、ノート、メモ用紙、のり、はさみなどを詰め合わせ)、活動記録、民生委員手帳のほか、民生委員バッジなどを被災した民生児童委員へ送りました。

また、県が発行する民生児童委員の身分証明書は、県民児協経由での再発行申請を認めてもらったことから速やかに交付でき、民生児童委員の活動環境を整えることができました。

(4) 陸前高田市民児協への支援

陸前高田市民児協は、民生児童委員83名のうち11名が死亡、事務局を担う社協は建物が全壊し、会長等役職員、事務局長等多数死亡するという被害を受けた状況の中、市民児協役員会を3月26日に開催し、いち早く組織として動き始めました。

8地区のうち唯一被災を免れた横田地区の会長が、各地区民児協会長の安否確認のため、市内全域を数日かけて歩き回り連絡を取り合ったことが組織的活動を始める原動力となりました。

県民児協は、後述のニーズ調査へ同行したほか、毎月開催される会長会へ出席し、被災地の民生児童委員

の状況把握に努めるとともに、市民児協へ必要な情報を提供しました。継続的な訪問により、県民児協と市民児協との信頼関係が築け、また、欠員民生児童委員の早期補充要望などお互いに連携した取り組みや効果的な支援をスムーズに行うことができました。

(5) 住田町と陸前高田市の民児協・社協合同のニーズ調査の実施

陸前高田市の隣に位置する住田町は、陸前高田市とは同一生活圏で元々住民の往来のある町です。その地縁から、発災直後より住田町社協は陸前高田市社協及び民児協を支援しており、また、町民児協も甚大な被害を受けた市民児協を同じ民生児童委員の仲間として応援したいと考えていました。

陸前高田市内では、在宅避難者を中心とした要援護者のニーズ調査の必要性がある一方で、被災した民生児童委員自らが住民のニーズを聞き取ることは精神的負担が大きいという状況がありました。

そこで、陸前高田市・住田町の両社協・民児協が協力し、道案内と顔つなぎは陸前高田市の委員、聞き取りは住田町の委員、記録は社協職員とした役割分担によりニーズ調査を実施しました。

この他、同性の女性民生委員が訪問したことにより、発災時の怖さの心情を吐露した住民もあり、住民に寄り添った活動を行うことができました。

(6) 欠員民生児童委員の早期補充要望

実施日	実施地区	訪問先、対応
H23.4.18	広田地区	17件訪問 介護ニーズ3件を把握し包括支援センターへ繋ぐ 津波被害がなく高台に住む高齢者の水運びの苦労を発見。地元自主防災組織とボランティアと連携し対応。
H23.4.20	気仙地区	77件訪問 透析ニーズ1件は保健師へ、泥出しニーズ4件は災害ボランティアセンターへ繋ぐ
H23.5.13	小友地区	避難所1ヵ所で47件のニーズあり(泥だし、田畑の片付等) ニーズ重複を精査し、34件のニーズにボランティアが対応
H23.5.18	米崎地区	14件訪問 買い物ニーズ1件はボランティア対応、介護ニーズ1件は包括支援センターへ繋ぐ



[訪問先打合せをする両市・町の民生児童委員]



[被災しない高台の住宅から]

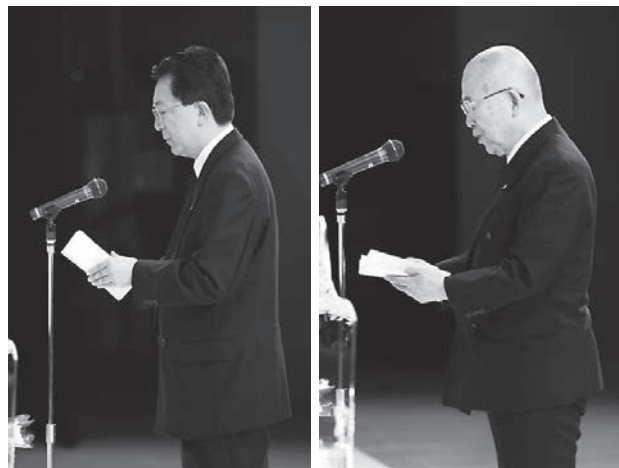
津波による死亡のほか、被災により転居・退任する民生児童委員が多く、通常よりも困難さを抱えた住民の相談対応や見守り等支援に支障があったことから、県民児協から県に対し、文書により欠員の早期補充要望を行いました。同時に、陸前高田市民児協も市に対し、同様の要望を行いました。

その結果、市町村から県へ推薦を行った後、厚生労働大臣の委嘱までの期間が1ヵ月程度になるなど、民生児童委員委嘱手続き期間が大幅に短縮されました。

(7) 東日本大震災津波 岩手県民生委員児童委員追悼式の開催

委員活動中に犠牲となった民生児童委員の御霊を追悼すること。また、ともに活動した仲間を失い、無念の気持ちを抱きつつ被災者支援活動を継続する現任民生児童委員の心情の整理を図る機会とするため、県民児協主催、県社協共催による追悼式を平成24年5月16日(水)に盛岡市都南文化会館を会場に開催しました。

ご遺族13組20名、市町村民児協会長副会長、沿岸市町村民生児童委員、行政、社協職員等のほか、厚



〔岩手県知事 達増 拓也氏 全民児連会長 天野 隆玄氏〕

生労働大臣、全民児連会長、岩手県知事、陸前高田市長など、約460名が参列しました。

全民児連天野会長は、弔辞の中で、「未曾有の大災害のなかにおいて、なお最後まで住民の方々のことを気遣われ、その使命を全うされましたことは、民生委員・児童委員の基本としての「社会奉仕の精神」の体現にほかなりません。強い使命感に基づき、最後まで地域の人びとの寄り添い続けたその行動は、私たち全国の民生委員・児童委員にとっての誇りであります。この岩手の各地において、そして全国のすべての民生委員・児童委員協議会において、永遠に語り継がれるべき事績となりましょう。」と述べられました。

また、ご遺族代表の挨拶では、「街の姿は変わっても、「結び取り」など古くからの人々の絆は変わらずに受け継がれています。この絆を頼りに、私たちのふるさとを自らの手で復興させていくことが残された私たちの務めであり、また、亡き夫の遺志を継ぐとともに、住民を守ろうとしながら亡くなられた民生委員の方々に報いる道であると思っています。」と述べられました。

(8) 被災民児協活動支援助成

地区民児協開催場所の確保、民生児童委員同士のピアカウンセリング効果、心身の疲労回復を目的とし、地区民児協開催経費等として、沿岸9市町村民児協に



〔助成金を活用して、宮古市鉾ヶ崎地区と盛岡市の民生児童委員が交流をもちました〕

助成を行いました。

通常の定例会では連絡事項が多くなりがちですが、この助成金を活用し、被災地を離れ、震災以降の日々を振り返ったり、日常の活動状況等について情報交換を行ったりなど、有意義な時間を過ごすことにより、次の民生児童委員活動への意欲を持つことができました。

この助成の財源として、他県民児協からの寄付金のほか、三菱復興支援財団や岩手県共同募金会の助成金を活用しました。

〈平成23年度〉 助成総額3,386,000円

〈平成24年度〉 助成総額8,910,000円

(9) 情報交換会の開催

未曾有の災害に直面し、自ら被災しながらも民生児童委員は住民支援に奔走してきました。その状況について市町村を超えて共有し、住民支援の在り方を考えるため、情報交換会を開催しました。

〈平成23年度〉

- ・開催日：平成23年10月17日～18日 ホテル千秋閣
- 参加者：115名



- ・沿岸9市町村民児協の会長副会長を対象
- 〈平成24年度〉

- ・開催日：平成24年10月29日～30日 ホテル千秋閣
- 参加者：185名
- ・県内全域の民生児童委員を対象

他地区の活動状況を知ることができ、また、内陸に住む民生児童委員にとっては沿岸の状況を知り、予期せぬ災害への備えを考えるきっかけとなりました。

また、この情報交換を機に、後日、内陸と沿岸の民児協での交流会へ繋がったところもあります。

参加者からは、「発災時の行動は間違っておらず全員ベストと思う判断をしたのだ」という講師の言葉や、自分以外にも頑張っている仲間の存在を知ることが、今後の民生児童委員活動の糧になったとの声が聞かれました。

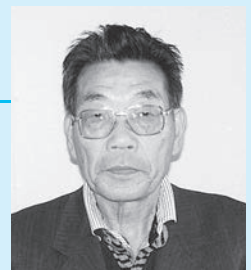
本情報交換会の開催も、他県民児協からの寄付金、三菱復興支援財団助成金を活用し、宿泊費を無料として開催することができました。

※本報告書上、民生委員・児童委員は、民生児童委員と表記しています。



[平成23、24年度ともに、グループワークを取り入れて意見交換と交流を深めました。]

盛岡市米内地区民生児童委員協議会 副会長 三浦 隆太郎



米内地区民児協では、仮設住宅入居者の生活支援に多少の地域格差があることを知り、それが比較的小規模仮設住宅であったので、その地域の支援活動を行うこととした。

陸前高田、釜石、大槌の担当社協や民児協等と相談協議して、被災者との交流を中心に融和を図るため、語らいの場を設け、お茶っこの会等を開催しました。内容的には、お茶っこのタイムに始まり、参加者も昼食の準備に加わって頂き、その間に木工(組子)手作りの花瓶台、コースター等を作製した。鉢植えの花をプレゼントし、温かい気持ちで過ごしてもらおうと願いを込めました。参加出来なかった方にも各戸訪問して贈りました。参加者は、明るく振る舞っていましたが、それぞれが心に大きな悲しみをかかえての生活でした。

自らも被災された民生委員さんは、被災者に寄り添いながら活動されておりました。

被災地では、地域復興と生活再建、そして被災された方々が、一日も早く震災前以上の住み慣れた地域での生活ができるようにと、心待ちにしている様子が感じられました。